

## 営繕事業における働き方改革の取組をパッケージ化して推進

### 適正な工期設定・施工時期等の平準化

|                  |  |
|------------------|--|
| <b>適正な工期設定等</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公共建築工事における工期設定の基本的考え方」、「建築工事適正工期算定プログラム(日建連)」、「働き方改革に配慮した公共建築設計業務委託のためのガイドライン」を踏まえた適切な工期・履行期間の設定。必要な工期・履行期間の延期（受注者の責によらない場合の対応の徹底）</li> <li>・各工程の施工期間の確保（監督職員が実施工程表等で確認。概成工期を発注時に設定）</li> </ul> |
| <b>週休2日の推進</b>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共建築工事標準仕様書等において原則週休2日を適用</li> <li>・週休2日促進工事を全ての工事で原則発注者指定として実施</li> </ul>   |
| <b>施工時期等の平準化</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・債務負担行為の積極活用（適正な工期・履行期間の確保、完成・完了時期の分散化にも寄与）や余裕期間制度の積極的活用</li> </ul>   |

### 必要経費へのしわ寄せ防止の徹底

|                    |  |
|--------------------|--|
| <b>予定価格の適正な設定等</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「営繕積算方式」により、実勢価格や現場実態を的確に反映した予定価格の設定</li> <li>・施工条件の変更に伴う適切な設計変更、物価変動等に伴うスライド条項の適切な運用</li> <li>・週休2日促進工事における4週8休を前提とした労務費補正</li> </ul> |
|--------------------|--|

### 生産性向上

|                    |   |
|--------------------|---|
| <b>ICTの積極的な活用等</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性向上技術の活用             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 官庁営繕事業における一貫したBIM活用（原則として全ての新営設計業務及び新営工事においてEIR(発注者情報要件)を適用、BIMデータを活用した積算業務を試行）</li> <li>➢ 情報共有システムの活用（機能要件の明確化、原則全ての工事で発注者指定、全ての設計業務で適用可能）</li> <li>➢ 建設現場の遠隔臨場(原則全ての工事で適用)</li> <li>➢ ICT建築土工、デジタル工事写真の黒板情報電子化 等</li> </ul> </li> <li>・工事の発注時・完成時における評価による生産性向上技術の導入促進</li> </ul> |
| <b>書類の簡素化</b>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書類の簡素化、省略・集約可能な書類等の明確化</li> <li>・工事・業務関係書類等の押印・署名廃止・完成図等の提出を原則電子に一本化</li> <li>・国の統一基準として工事の標準書式を制定</li> </ul>   |
| <b>関係者間調整の円滑化</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計業務の発注における設計条件の明示(諸条件の整理と適用基準の明示等)</li> <li>・適切な設計図書への作成に向けた取組み(設計業務プロセス管理、設計段階における施工条件の確認等)</li> <li>・設計業務受注者から工事受注者等への遅滞ない設計意図伝達(設定された期限の遵守を契約図書に明記)</li> <li>・関連する工事間での納まり等の調整を効率化(総合図作成ガイドライン(土会連合会)やBIMの活用)</li> <li>・関係者間の情報共有や検討を迅速化(会議の早期開催、情報共有システムの活用等)</li> </ul>   |

公共建築の工事・設計業務の受発注者への普及促進